

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 閉会中継続調査事件

(1) 西部地区のまちづくりについて

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、これまでの調査や協議の内容を踏まえ、正副で調整した調査のまとめ（案）を、9月4日の経済建設分科会散会后、各委員にごらんいただいたところであるが、本日は、この調査のまとめ（案）をもとに、委員会としての最終的な取りまとめの協議を行うこととしていたので、そのように進めさせていただく。各委員においては、事前に一読いただいたと思うので、詳細な説明は省略させていただくが、ポイントを絞って簡単に説明させていただく。
- ・ 資料説明：「西部地区のまちづくりについて 調査のまとめ（案）」（正副委員長調製）
- ・ 説明は以上となるが、調査のまとめ（案）について、各委員から何か発言はあるか。

○阿部 善一委員

- ・ 基本的にはこういうことだろうと思うが、手法をどうするのかと。考え方は考え方としてあるのだが、それを実行していくために、具現化するために、手法をどうしたらいいのかということ、議会としても提言できるものは提言したほうがいいのかなどと思うし、その手法がなければただの考え方を示しただけであって、果たしてどれだけのものが、議会として責任を負うことができるのかということで、私はちょっと疑問を感じる。その辺はどのように考えているか。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 今、部局のほうでさまざま懇談会等を行い、年度内に方針をまとめていくような動きをしているので、まずはそちらを見守りながらとは考えているが、やはり手法になるとかなり専門的な話になってくるので、この中で具体的な手法までを見出すというのはちょっと難しいのではないかと考えている。

○阿部 善一委員

- ・ 私が入った頃から、この西部地区の問題をどうするかと、二十何年前からずっと議会でも議論してきた。その都度、いろいろな対策は講じてきたのだが、結果がこうなっている。これが何よりも物語っている話なので、西部地区だけではないが、西部地区は特に顕著な形になってきている。問題は、全部の責任を誰任せ彼任せだった。行政は口は出すが、補助金は出すが、具体的な案もない中でそれをやはりどうやって、今までの総括をするかということが非常に大事で、そこがきちんと総括できなければ、立派な提案をしても何しても、私はそれは無責任に感じる。だから、行政がどういう考え方を持っているのかわからないが、できれば行政には、どのような考え方を持っているか1度聴きたいくらいである。今まで二、三十年以上にわたり、西部地区をどうするどうするとずっと言ってきたのが、何にも変わらない。さっき言ったように、ますます衰退をしていく。函館の象徴でもある地域だけに、これ以上はもう歯止めをかけなければ、どうしようもないことになってしまう。西部地区が崩

れたら、函館の観光は終わってしまう。そういう意味では、非常に危機感を感じているし、そのことに行政も議会も具体策を見出せないと言うなら、すべてもういらなくなってしまう。そういう意味で、ぜひ行政が考えているのであれば、それをきちんと御披露していただきたい。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 了解した。前回、1回目のコンサルも含めての打ち合わせをしているという話は聞いているので、まだ始まった段階なので、少しその経過を見て、説明を受ける機会をつくり、我々としても議論を進めていくような形をとるといふことによろしいか。今回のまとめとしては、このような形で提出したいと考えている。

○阿部 善一委員

- ・ 了解した。

○工藤 恵美委員

- ・ 調査のまとめとしては、各委員の意見が全部入っており、よくまとめられている。
- ・ 阿部委員の言うとおりに、長いこと西部地域の問題はあるのだが、こうやって集中的に委員会で取り上げたことは、なかなかなかったのかなと思っている。つい二、三日前に、西部地域の伝建になっているおうちの方、持ち主のお母さんが亡くなられて、息子さんは東京にいます。それで、空き家になっていて、今までは、空き家状態になっていても、そこに存在するだけでいいと思ひ、少しずつ手直しをしながら維持してきたが、もう函館に戻って来ることがないということがはっきり決まった上で、壊したいという話になった。西部地域は場所的にも観光客が通るところであり、そういうところが、壊すか残すかという瀬戸際に立って来ている状態だと思う。だから、ゆっくりではなく、スピードアップして、どう残していくのかとか、壊してもいいのかとか、そういうことだけでも早急に決めてほしいと理事者に要求する。

○工藤 篤委員

- ・ 何日か前の新聞に、「函館市、西部地区再整備で利便性調査」というのが出ていた。印象や居住の意向などを市民らに調査した結果、「生活に不便」と考える人が同地区に住んでいない方で5割に上り、一方で、住んでいる方では2割にとどまっているというのが書かれていた。このことから、住んでいる方を中心にして考えると、余り問題意識というか、そういうものを持っていないのかなという気がした。市の考え方と、居住者とのミスマッチのようなものがあるのかなと思うので、その辺は、——工藤 恵美委員がおっしゃったことは一方でありながら——もう少し慎重に、意向調査も含めて考えていかなければならないのではないかと思った。その辺はこの中には入らないとは思ひが、言葉で、担当部なりに、ミスマッチのないような形で進めてもらいたいということをお話したほうがいいかと思った。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 西部地区に住んでいる人たちは、利便性はそんなに悪くないのではないかということで、外から離れている人は、利便性が悪いから行きたくないというような内容のアンケート調査であったと思う。

○阿部 善一委員

- ・ 西部地区という大がかりな地域ではなく、住居などの地区、ここで若干の差異があるような気はする。

○工藤 篤委員

- ・ 調査の中身が手元にないので、どう判断したらいいかわからないが、新聞だけで見るとそういう感じなので、そういうことが、阿部委員がおっしゃるような、二、三十年にわたり進んでこなかったという部分でもあるのかなと思ったので、ある意味で大胆に、ある意味で慎重にやっていかなければならないのかなと思った。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ その辺のアンケート調査も含めて議論しているので、その経過を見て、我々も説明を聞きながら、議論していきたいなと思っているので、よろしいか。

○工藤 篤委員

- ・ 了解した。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 他に発言ないか。（なし）
- ・ 本件については、調査のまとめ（案）をもって、最終のまとめとさせていただきたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ それでは、皆さんには後ほど、調査のまとめに、これまでの調査の概要等を加えた形で、調査結果としてお渡しする。また、今後の参考としていただくため、理事者に対し、委員会の調査結果を配付したいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ それでは、理事者への調査結果の参考配付については、日程調整のうえ、後日、正副から行うこととし、以上をもって本件調査を終了したいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ お諮りする。閉会中に委員会が行った調査については、次の定例会で報告することとなるが、委員長の報告文については、委員長に一任願いたいと思う。これに異議ないか。（異議なし）
- ・ 議題終結宣告

2 その他

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前10時18分散会